

知多半島におけるシラタマホシクサ の分布とその現況

磯部 亮一

愛知県を中心に北勢、西遠、東濃など伊勢湾周辺にのみ分布するシラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim. (ホシクサ科) は、水湿地に群生する東海地方の固有植物である。

近年(1981~1988)、筆者は愛知県知多半島において、水生・湿生植物などの現地調査をしている。半島中央部に位置する武豊町内には、前記のシラタマホシクサが群生する湿地があり、明治時代「知多ニ産スル」と記録(1882)された名草であるナガバノイシモチソウ(白花種)が現存することなどから、1984年3月「沓町田湿地植物群落」として愛知県指定の天然記念物となりその保護活動にも参加してきた。

本稿では広義の水草として、農業基盤整備や宅地造成など、大がかりに進む丘陵地の土地開発で、自生地の消失が気になりとなっている知多半島におけるシラタマホシクサの分布地(図1)について概況を報告しておきたい。

表題の半島は、名古屋市から南方へ約50km突き出た伊勢・三河の両湾に挟まれた第四紀の洪積層と第三紀の地層からなる標高40~100m程度の丘陵性の半島である。名古屋市東部の尾張丘陵がそのまま延長して丘陵地帯の地層には、不透水性の粘土層を含み地下水が斜面下部の地表に湧出し、大小さまざまな湿地が各地にみられる。

これらの湿地には、モウセンゴケ・ミミカキグサなどの食虫植物やミズゴケ類をはじめカリマタガヤ・ヌマガヤ・ミカツキグサ・イヌノハナヒゲ類など湿生植物群落が構成され植物地理学の立場からも、重要な植物が生育している。

シラタマホシクサの生育する各湿地の概要

1. 沓町田湿地(知多郡武豊町沓町田)

沓町田湿地は、武豊町北西部丘陵の標高40~50mのなだらかな東斜面にあり、中央に流れる小さな沢をはさんで二カ所に低温酸性の湧水湿地がある。

この湿地には、シラタマホシクサの群生がみられるほか、シロバナナガバノイシモチソウ・モウセンゴケ・コモウセンゴケ・ミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ・ヒメミミカキグサ・ムラサキミミカキグサが多産、食虫

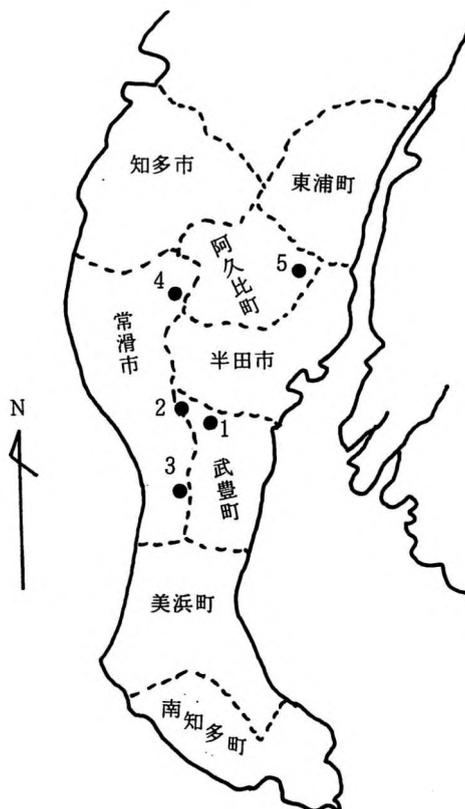


図1. 知多半島におけるシラタマホシクサの分布

1. 沓町田湿地
2. 二ツ峰湿地
3. 大谷湿地
4. 久米湿地
5. 長根池湿地

植物の宝庫となっている。ヤチカワズスゲ・ミカワシソウ・ジュガヤなど特殊植物を含めて約50種の湿生植物が生育する。

1982年から武豊町北部地区89haを農地開発をするにあたり、町の委嘱で和田基己氏によって植生調査を実施、その年にヒメミミカキグサを発見、食虫植物7種類の生育確認をしてからにわかに注目され、湿地を含む山林1.1haを1983年に町が買収、周囲を金網フェンスで囲い観察路を設け、毎年夏期6月~9月に10日間、日時をきめて一般公開している。9月上旬の開放日には、湿地一帯にシラ

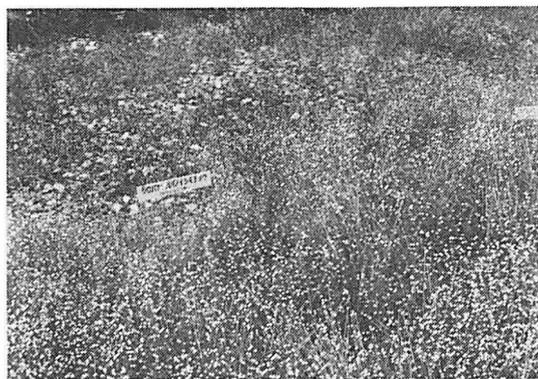


図2. ナガバノイシモチソウと共生するシラタマホシクサ群落, 壱町田湿地 1986. 9. 6

タマホシクサ・イワショウブ・サワシロギクが開花して、地元の人をはじめ県内外からも多くの参観者がある。

2. ニツ峰湿地 (知多郡武豊町ニツ峰)

武豊町の最北端丘陵地にあるニツ峰の湿地は、常滑市との境界線に位置するため池(竹の水池)北方の尾根、標高70~80mをはさんで南斜面と北斜面にそれぞれ湿地があり、北側の湿地は湧水量が多く、シラタマホシクサなど湿生植物の種類も豊富である(図3)。

1983年~1984年、筆者らの調査でミカワシオガマやヒメミカキグサを確認したが、その後、水田の拡張工事で湿地下部が削除され、ミカワシオガマ・スイラン・ノハナショウブ・シラタマホシクサ・ノタヌキモなどが消えた。更に、本年(1988)4月から、この丘陵地を畑地

とするため、土砂の採取が始まり湿地全体が消滅することになった。

当概地域からシデコブシの自生報告(中西, 1973)がなされていることから、筆者は毎春この地域を訪れ調べているが、今だに確認できず残念ながら、すでに絶滅していたものと考えている。

3. 大谷湿地 (常滑市大谷奥条)

常滑市大谷浄水場の北方、約1kmに高砂山(標主86.9m)がある。アカマツ・コナラ・ヒサカキの低木林が東に延びる谷間に、比較的大規模な東斜面の大谷湿地がある。

ヌマガヤにイヌツゲが混生、所々に湧水が出て、日当りのよい砂礫地には、食虫植物のモウセンゴケやムラサキミミカキグサが特に多く、シラタマホシクサは知多半島で最大の群生地となっている。また、ムラサキミミカキグサとシラタマホシクサは知多半島での南限地で、この湿地以南には自生地がみられない。

湿地内には、シロバナハルリンドウ・ショウジョウバカマ・コバノトンボソウ・ミズギク・サワシロギク・サワヒヨドリ・ミズギボウシ・ミカヅキグサ・マネキシンジュガヤ・カモノハシ・イワショウブ・ホソバリンドウなどのほか、この付近一帯には、ササユリ・ノカンゾウ・キスゲなど多くの野草類が生育している。

また、この湿地で昭和初期(1927)に本会の会員である齊藤常夫氏によって、食虫植物のヒメミカキグサが確認されており、筆者らも昨年(1987)、9月20日に同種を再確認している。今のところ自然環境のよい湿地で、開発計画などの話しは出ていないようだが、シラタマホ

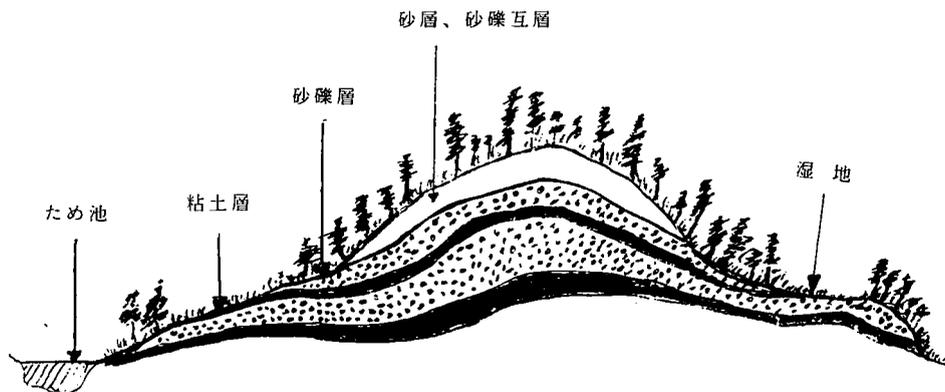


図3. ニツ峰湿地付近の地層断面

シクサの群生地として後世に残したい湿地の一つである。

4. 久米湿地 (常滑市久米御林)

県道、岩滑 (半田市) ~大野 (常滑市) 線の半田池の西方、道路南側の丘陵地に2カ所および、北側の久米浄水場ちかくの谷頭に3カ所、合せて5カ所の比較的小規模なシラタマホシクサの自生する久米湿地群がある。

以前は、シラタマホシクサの豊富な湿地であったようだが、湿地上部の土砂採取や樹木の伐採などで湧水量が減少し、ヌマガヤが繁茂して湿地植物は激減している。

現在では、その内の1カ所のみ湧水量が多くみられ、シラタマホシクサのほかショウジョウバカマ・カキラン・コバノトンボソウ・ミズギク・ミズギボウシ・イトイヌノハナヒゲ・カリマタガヤ・ヌマガヤをはじめ、食虫植物のモウセンゴケ・ミミカキグサ・ムラサキミミカキグサ・タヌキモなどが生育し、晩秋のころウメバチソウの開花がみられる。

5. 長根池湿地 (知多郡阿久比町板山)

N T T板山無線中継所の鉄塔がみえる丘陵地の西谷に、長根池と言うため池がある。この池の南側と東側の斜面に、それぞれシラタマホシクサの生育する長根池湿地がある。

池の南側の湿地は、耕地跡にできた新しい湿地で東西150m、南北40mほどの比較的大い湿地である。中央に水深20~30cmの湧水の流れてむ小さな沼地が形成されている。

この沼地の周囲には、ヌマガヤ・カリマタガヤ・イトイヌノハナヒゲ・アブラガヤなどが生育し、沼地内にはホタルイ・サワトウガラシ・タチモ・ヨシ・ミミカキグサ・ムラサキミミカキグサなど外来植物が生育するほか、オオバナイトタヌキモ・インフラータなど外来の食虫植物も移入されている。

以上報告をするにあたり、従前の湿地について、貴重



図4. 知多半島最大のシラタマホシクサ群落, 大谷湿地
1987. 9. 20

な御教示をいただいた本会の浜島繁隆、斉藤常夫、地元半田東高校の窪田宣和、阿久比中学校の加川満の諸先生にお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 井波一雄, 1971. 尾張の植物. 愛知県高等学校生物教育研究会, 29-47.
- 大原準之助, 1971. 愛知県植物目録.
- 中西弘樹, 1973. 知多半島植物目録.
- 浜島繁隆, 1979. 失われてゆく滝の水 (名古屋市) の小湿原. 植物と自然13 (12), 56-57.
- 大滝末男・石戸忠, 1980. 日本水生植物図鑑. 124-125 北隆館.
- 和田基己, 1984. 武豊町の植生. 愛知県武豊町.
- 杉本順一, 1984. 静岡県植物誌. 第一法規出版.
- 磯部亮一, 1986. 知多半島丘陵部におけるタヌキモ科植物の現況について. 水草研究会報No.24, 8-10.
- 窪田宣和, 1986. 知多半島の湿地の食虫植物. 愛知理科教育研究会高等学校部会研究集録No.23, 35-38.